3 種ごとの解説

（1）植物

《概要》

田んぼにたくさんいたトンボやメダカが絶滅に近いほど減ってしまい、これは耕地整理と農薬のせいだと分かっているように、戦争が終わってから今までの半世紀の間に農地と付近に生えていた植物もいちじるしく変わってしまいました。かつては、カキツバタ・ショウブ・ミツガシワ・ヒツジグサ・コウホネ・ノウルシ等はどこの田んぼでも普通に生えていましたし、デンジソウも見られました。水中にはミズオオバコ・クロモ・セキショウモ・ミズハコベ・タヌキモ類等が、また水面にはサンショウモ等も普通の植物でした。今はこれらの種類は激減してしまって見られなくなりました。それでも農薬に抵抗力のある種類がはびこって、田んぼの外観は何事もなかったかのように青々としています。

田んぼの雑草の中にはあまりなじみのない種類も多く、ホタルイ・イヌホタルイ・タイワンヤマイがかつてどんな分布の仕方をしていたかの記録はほとんどありません。この仲間は分類が難しいせいもありますが、田んぼにはホタルイがなくなり別種のイヌホタルイが殖えています。イヌホタルイは農薬に対する抵抗力があるからです。タデ科もお互いによく似て判別しにくい種類で、その中の絶滅危惧種のヌカボタデ、ヤナギヌカボは農薬のために今では見られませんが、わずかに書き残されている文章から、かつては低地に普通に生えていたことを知ることができます。青森市八重田のきれいな川の中には、ミズスギナがミズハコベ・ホソバミズヒキモ等と共に流れの中に揺れていましたが、付近に住宅が建つようになって生活排水が流れ込んで絶滅するまでにはそんなに時間がかかりませんでした。

ショウブは五月の節句には欠かせない植物飾りで、ショウブとヨモギを束ねて風呂に浮かべショウブ湯にして入る習慣がありました。また、子供達はこの葉の基の部分で草笛を作って鳴らしました。どこの田んぼの小川や溝にもあったショウブが絶滅したのでこの優雅な先祖伝来の習慣さえ失われつつあります。

青森から平舘までのむつ湾沿岸は外が浜と呼ばれて砂浜が続いていてスカシユリがたくさん咲いていました。今はこの沿岸全域では、護岸工事により、スカシユリと一緒に生えていたハマナス・ウンラン・ハマヒルガオ等の海浜植物はほとんど絶滅してしまいました。八戸でも開発で失われた北沼は貴重な植物の宝庫でした。他にも各地に失われた自然植物群落がたくさんあります。

国有林に広く分布しているブナ林やヒバ林は、伐採されスギやカラマツがかわりに植えられましたが、海抜が高く積雪量が多い山地では良い林にはなりませんでした。これも今では天然林に戻す施策がとられています。

湿地の埋め立てやダム建設や道路建設で人間は快適な環境を作りましたが、そのため破壊された自然環境は容易に回復できません。今後は絶滅にひんしている種類を保護して子孫に残す義務を果たさなければいけません。そんな願いも込めて普及版の植物序文とします。

シダ植物ヒカゲノカズラ科

チシマヒカゲノカズラ

青森県：D
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

細井幸兵衛所蔵

本種の葉は茎の左右上下に4列につきますが、よく似ているタカネヒカゲノカズラ（八甲田山に広く分布します）は、葉が茎に数列不規則につきます。現在確認されているのは岩木山だけですが、詳しい調査はまだされていません。

岩木山のものは細分すればミヤマヒカゲノカズラという変種にあたりますが、環境庁の目録では区別していないので、本書でもチシマヒカゲノカズラとしています。

細　井

シダ植物ミズニラ科

ヒメミズニラ

青森県：C
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

須藤智道撮影

高地の池塘や池沼の底に生える、沈水性の植物です。ミズニラによく似ていますが全体小形で葉の長さ5～15㎝、塊茎（かいけい）の底の部分が2分する点で見分けられます。北海道・本州（中部以北）に分布し、県内では八甲田山・蔦（つた）沼に産します。十和田八幡平国立公園内にありますが、自然災害や遊歩道建設などによる土砂の流入、水位の変化があれば生育に影響がでてきます。

原　子

シダ植物ミズニラ科

ミズニラ

青森県：C
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

細井幸兵衛撮影

低地の池沼や小川の底、時に湿地に生えるシダの仲間です。全体がニラに似ているところから和名がきています。葉は長さ10～15㎝で、つけねは白色で膨らみ胞子のうをつけます。茎は泥の中にあって塊茎（かいけい）となり、底の部分は3分します。

本州・四国・九州に分布し、県内にも数か所生育地が知られています。周辺の開発が進み土砂や排水の流入などにより生活域が狭（せば）められ減少が目立っています。

原　子

シダ植物ウラボシ科

オオエゾデンダ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

根市益三撮影

岩上などに着生する常緑性のシダです。葉は柄とともに10～30㎝。よく似た種類にエゾデンダ・オシャグジデンダがあります。

北海道と本州に分布し産地は限られています。県内では東通村桑畑山、青森市七十森、八戸市の鮫から種差までの海岸の岩間に見られます。八戸では道路拡張工事で消滅した所もあり、植生の遷移（せんい）などで減少傾向にあります。

根　市

シダ植物サンショウモ科

サンショウモ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

木村啓撮影

水面に浮かんで生活する一年草です。葉は楕円形で、表面に突起や毛があり、ヤスリの感じをしています。

和名の由来は、葉の形態を山椒に見立てたものです。

50年ほど前までは、県内各地の溜め池や田んぼの溝などによく見られたのですが、近年はほとんど目にする事ができなくなりました。

生育地の水環境が変わらないようにする必要があります。

木　村

双子葉植物離弁花類タデ科

ヤナギヌカボ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

細井幸兵衛所蔵

低地の湿ったところにごくまれに生えます。かつては水田地帯にも広く分布していたことが記録されていますが、今ではほとんど見つからなくなりました。

小川原湖畔、むつ市、青森市などの記録があり、今でも分布していると考えられますが、詳細は不明です。

1903年に青森市で採られた標本が東京大学に保存されています。

細　井

双子葉植物離弁花類タデ科

ヌカボタデ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

細井幸兵衛所蔵

かつては低地の湿地に普通に分布していたようですが、今ではなかなか見られなくなりました。自然度の高い岩木川の河口周辺のようなところでないと見つからないのは、農薬の影響が考えられます。

青森市では1955年に採集されているので、その頃までは残っていたことがわかります。その後は不明です。岩木川河口の湿地には今でも少しだけ生育しています。

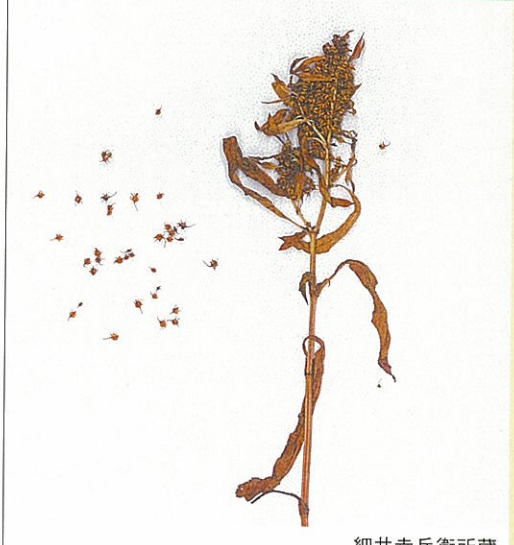
かつて、津軽地方の水辺・ため池・農地に広く分布していた記録が残っています。

細　井

双子葉植物離弁花類タデ科

コガネギシギシ

青森県：A
環境庁：該当なし



細井幸兵衛所蔵

本州での分布はとても少なく、本県では1912年（明治45年）に八戸市種差海岸で標本が残されていて、その後再確認できなかったので、県レッドデータブック作成時には絶滅種として解説しました。

ところが、1999年、六ヶ所村鷹架（たかほこ）沼の一隅に、貧弱な個体が数株分布していることが確認されました。実に87年ぶりになります。

果実に特徴があるので、熟果があればよく分かります。

細　井

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

アオモリミミナグサ

青森県：C
環境庁：該当なし

細井幸兵衛撮影

鰺ヶ沢町然ヶ岳のものに日本特産のセイヨウミミナグサの一変種としてアオモリの名を冠して、この名前が付けられました。

後に函館のミツモリミミナグサ、渡島の太平山ヒロハミツモリミミナグサと同じなので、最初に発表されたミツモリミミナグサの名前でよいとの意見が出されました。しかしタカネミミナグサと同じだという見解もあってなお判然としていません。今後の詳細な研究が望まれます。本県でも保護に留意すべき種類です。

細　井

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

エンビセンノウ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

根市益三撮影

湿地に生える多年草で、和名は花弁が燕尾状に細かく裂けるところからきています。仲間に山地生で花弁の裂けないフシグロセンノウがあります。

北海道と本州の限られた地域に分布し、県内では八戸市の北沼に産することが古くから知られていましたが、北沼は1960年代工業用地造成のために埋め立てられ、生育地は背後の段丘上にわずかに残るだけとなっています。日当たりの湿地を好むので、樹木などが侵入してきますと絶滅の心配があります。

根　市

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

クシロワチガイソウ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

細井幸兵衛所蔵

北海道釧路の名が付いているだけに北海道では広く分布していますが、本州では特異な分布をして、岩手県と栃木県からだけ知られていました。岩手県では北上山地の花崗岩類の風化土のみに見られるといいます。

県内では北上山地と同じように花崗岩の風化土である白神山地の尾根にまれに分布していますが、詳しいことは分かっていません。特別目立つ種類ではありませんが、白神山地では7月下旬に小さい白い花が咲く時には見つかります。

細　井

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

アオモリマンテマ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

兼平瑞夫撮影

相馬村屏風岩・西目屋村暗門の滝・鰺ヶ沢町然ヶ岳の3か所に分布しているものが、世界で初めてのマンテマの一種とわかり名前が付けられました。その後、白神山地のほかに秋田県男鹿半島・和賀山塊でも大量に見つかりました。

日当たりの良い岩場に生え、花の時には高さが20㎝位で、花期は場所によって5月中旬から7月下旬までと差がありますが、花径3㎝位で目立つので盗掘が激しく、手の届くところにはなくなりました。

細　井

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

イトハコベ

青森県：A
環境庁：該当なし

木村啓撮影

低湿地に生え、茎は細く四角で、糸のように伸びる多年草です。花は白色5弁ですが深く裂けているので、10枚に見えます。

関東平野と仙台平野だけでしか知られていませんでしたが、車力村屏風山（びょうぶ）の湿地で発見され、日本第3番目の産地となりました。

屏風山（びょうぶ）湿地の限られた場所だけでしか見られず、株数もたいへん少ないです。湿地の環境が変わると、姿を消してしまうようです。生育場所の湿原を保全することが望まれます。

木　村

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

エゾハコベ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

根市益三撮影

塩湿地に生える多年草。人里で普通に見られるハコベに似ていますが、茎は高さ10㎝内外で毛がなく葉は無柄で厚いのが特徴です。

北の方の植物で北海道に分布することは知られていましたが、最近県内の六ヶ所村尾駮（おぶち）沼の河口近くで発見されここが南限の産地になりました。生育面積が小さく、個体数も少ないので、最近進んでいる海岸開発および水質・水位の変化で消滅する心配があります。

根　市

双子葉植物離弁花類ナデシコ科

ナガバツメクサ

青森県：C
環境庁：該当なし

根市益三撮影

湿地に生える多年草。茎は高さ20～40㎝、4稜形で稜上に粒状の突起があります。葉はツメクサを長くしたような形ですが、花を見ればハコベの仲間であることがわかります。5月下旬～6月頃茎の先に集散状に花をつけます。

北海道・本州（青森）に分布する北の方の植物で、県内では六ヶ所村市柳沼と三沢市仏沼付近のハンノキ林下ミズバショウ群落中に小群が見られます。

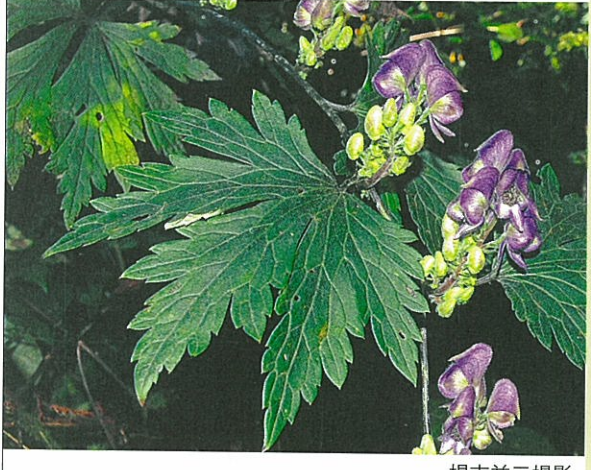
湿原開発、水位低下、遷移の進行などの環境変化が心配されます。

根　市

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

センウズモドキ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

林下に生える多年草。同じ仲間にオクトリカブトやウゼントリカブトがあり見分けの難しい種類です。

本州中部から関東・東北地方の太平洋側に分布し、県内では八戸市以南にまれに見られます。奥羽山系に普通なオクトリカブト、ややまれなウゼントリカブトとの3種間でしばしば雑種を作るので詳しい調査が必要です。落葉広葉樹林の伐採、スギ植林地化などで減少しつつあります。

根　市